

第53期定時株主総会決議ご通知

平成28年6月23日開催の当社第53期定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されましたので、ご通知申し上げます。

記

報告事項

- 1) 第53期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人及び監査役会の連結計算書類監査結果報告の件は、その内容について報告いたしました。
- 2) 第53期（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）計算書類報告の件は、その内容について報告いたしました。

決議事項

- 第1号議案：剰余金の処分の件 本件は、原案のとおり承認可決され、期末配当金は、1株につき5円と決定いたしました。
- 第2号議案：定款一部変更の件 本件は、原案のとおり承認可決されました。
- 第3号議案：取締役6名選任の件 本件は、原案のとおり承認可決されました。

以上

ホームページのご案内

和弘食品のWEBサイトでは、IR情報やラーメン・外食向けレシピ情報など当社に関する各種情報を発信しています。



<http://www.wakoushokuhin.co.jp/>



<http://www.ramensoup-tare.com/>

第53期 年次報告書

平成27年4月1日 ▶ 平成28年3月31日

本物、天然、健康と安全。



「本物志向」・ 「天然志向」・「健康志向」

を基本に少量多品種短納期生産に磨きを掛け、
高付加価値の商品作りとお客様満足度の向上に努めてまいります。

2016年3月期の業績及び 今後の課題について

当社グループでは、主に成長戦略の礎となる国内事業が、前期に引き続き外食・中食の業務用調味料市場の開拓、拡大により伸長し、売上高が前期比16.9%増の70億83百万円となりました。また、利益面におきましても、米国子会社の費用負担が増大するなか、営業利益が前期比8.5%増となる158百万円を確保し、期初の業績予想を上回る結果を残すことが出来ました。

売上高好調の要因は、当社の強みである少量多品種短納期生産に加え、豚骨・鶏ガラなどのダシを炊き出す工程、オイルのシーズニング工程など他の業務用調味料メーカーには真似し難い当社特有の工場設備を活用した差別化商品が好評で、新たな商談・取引に繋がっている結果です。今後も少量多品種短納期生産及び独創的な高付加価値商品作りに磨きを掛け、更なる拡販に注力していく考えです。

また、来期以降の課題として、外食・中食業界の大手企業との取り組みが増加していることから、生産量増加に伴う生産人員の採用・教育、生産設備の増強を行い、生産性向上を図りつつ安定供給可能な生産体制への整備、要求レベルが高まる品質への対応など、量・質両面の向上へ社内体制の強化にも力を入れてまいります。



2016年6月

代表取締役社長 **和山 明弘**

米国子会社の状況及び今後の展望について

現地工場は建物工事・生産設備の設置工事を終え、行政による検査も完了し、生産・販売を開始いたしました。現状は、生産面において、人員の採用・教育を中心に生産体制を整備しつつ、稼働率を徐々に向上させることが喫緊の課題です。

営業面では、工場稼働を見据えて米国、カナダの主要都市で営業活動を行って来ましたが、ラーメン専門店を中心に積極的なサンプルワークを行った結果、既に数多くの商品で引き合いがあります。

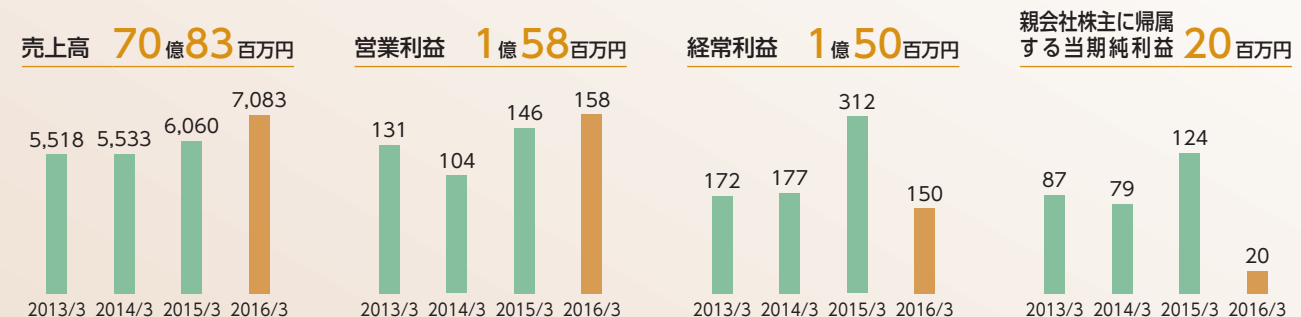
米国のラーメン関連市場は急速に拡大しており、ラーメン専門店の数は、3年前と比較して倍増の勢いです。また、多店舗展開を目指す企業の増加や専門店以外の飲食業態でのラーメンメニューの導入も急速に増えつつあり、業務用ラーメンスープへの需要は、今後ますます増えていきます。また、ラーメン以外の日本の外食・中食企業の米国進出計画も目白押しで、この分野でも大きな需要が見込まれます。

株主の皆さまへメッセージをお願いします。

2017年3月期は、国内事業については好調な流れを継続し、安定的成長が継続出来るビジネスモデルへの転換を進めていきます。また、米国事業については、良好な市場環境を背景に生産体制の整備を急ぎ、単年度黒字化に向けた足掛かりを築きたいと考えています。

当社グループは成長戦略の実現に向け、3～5年後の利益成長ステージに着実に歩みを進めております。その成果にご期待いただくとともに、末永くご支援いただきますようお願い申し上げます。

決算ハイライト (単位:百万円)



事業内容のご紹介

お客様に合わせたオーダーメイド・PB製品をご提案します。

当社グループは北海道の新鮮な食材をもとに、スープ、タレ、天然エキスとブイヨンを作り出す、業務用調味料の専門メーカーです。

主にお客様ブランド名（PB）商品製造に特化しており、その味は数々の食品メーカーやホテル、レストラン、スーパーマーケット（SM）、コンビニエンスストア（CVS）等を通じて全国に広く浸透しております。

今後も、「高付加価値な商品作り」「食の安全と安心」を目指すとともに、少子高齢化の進行などによる国内市場の将来的な縮小予測に対応すべく、海外市場への積極的な展開を図ってまいります。

〈PB商品開発の流れ〉

1 ヒアリング・商談



担当者がお客様の要望する商品（目標スペック、希望コスト、商品形態等）についてお伺いします。

2 サンプル試作～提出



サンプルを試作し、ご提示いたします。

3 サンプル味確認～改良



サンプルをご確認いただき、お客様との相談を繰り返しながら、ご要望に合った商品の完成を目指します。

4 PB商品決定製造～出荷



お客様ご要望の商品を、ご希望の納期にお届けいたします。（決定から納期は2週間が目安です。）なお、必要に応じて製造工場、製造立会いをいただくことも可能です。

製品形態別売上概況

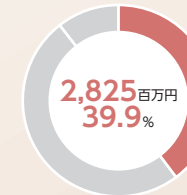
別添用



主に内食業界向け（袋めん付属スープ等）、中食業界向け（CVS向け調理麺付属スープ・めんつゆ等）で使用される形態です。

本格的な専門店の味をご家庭にお届けすることをモットーに味作りをしています。

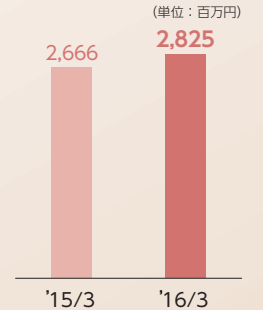
売上高構成比



5.9%増

'16/3

売上高推移



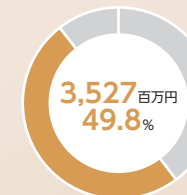
業務用



主に中食業界向け（SMの惣菜バックヤード等）、外食業界向け（ラーメン店、レストラン、居酒屋等）で業務用として使用される形態です。

本格的な専門店の味の再現や仕込み作業軽減等、数多くの企業・繁盛店様のご要望やニーズに沿った製品作りを心掛けております。

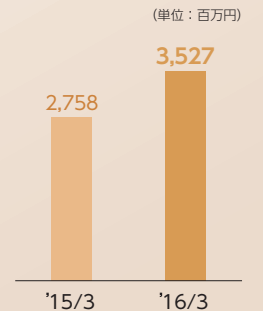
売上高構成比



27.9%増

'16/3

売上高推移



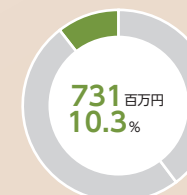
天然エキス・商品等



北海道の新鮮素材を独自の製造技術により精製した天然エキスは、原料として数多くの製品に取り入れられている他、外販もしております。

また、商品（転売品）等もこの項目に含めて表示しております。

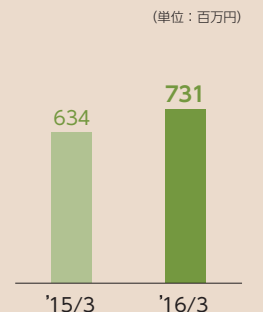
売上高構成比



15.2%増

'16/3

売上高推移



米国子会社について

アメリカで本格的なラーメンを！ 待望の米国子会社『WAKOU USA INC.』工場稼働

当社グループでは“ラーメンを世界に”というスローガンを実現するため、2012年にカリフォルニア州に米国子会社『WAKOU USA INC.』を設立、2015年9月より工場稼働をスタートさせました。

北米圏においては、米国農務省（USDA）の認証取得が大変困難であり、日本から米国への畜肉及びそれらのエキスを使用した食品輸出は不可とされていましたが、この度の工場稼働に伴い、下記の対応ができるようになりました。

- ① 北米圏でラーメンスープや各種たれ・ソース等調味料の現地生産
- ② 小ロットによるお客様のPB商品製造（カスタムメイド）
- ③ USDA認証のガラスープ（スープストック）製造



日本と変わらないサービス・商品をご提供するために

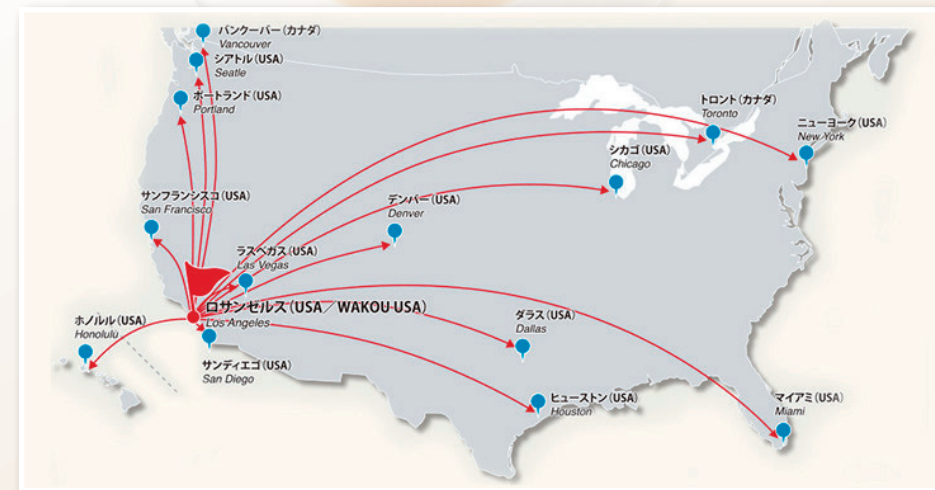
米国農務省（USDA）の認証取得可能な米国でも珍しいスープ類専門工場です。

ガラスープは長時間の加熱攪拌・炊き出しに対応できるため、専門店と同様の品質を提供することができます。香味野菜類を高温でシーズニングできる設備も併用。あおり野菜による調理感や焦がしオイルなどにも対応できます。

また、当社グループの特長である、小ロット対応を実現する設備も整えております。

ラーメンスープ以外の多彩な味付けにも対応できますので、日本食文化を北米圏へ広めたいというご要望にもお応えできます。

北米圏は現在約14箇所とセールスルートを拡大中！



カリフォルニア州ロサンゼルスを中心に、現在はバンクーバー、シアトル、ポートランド、サンフランシスコ、ハワイ、ラスベガス、サンディエゴ、ダラス、ヒューストン、トロント、シカゴ、ニューヨーク、マイアミ、デンバーなど14箇所とセールスルートを拡大しています。

外食ビジネスウィーク2015について

3日間で4万5千人のご来場！ 日本最大級のラーメン産業展が無事閉幕！



2015年8月26日（水）～28日（金）「外食ビジネスウィーク2015 in 東京ビッグサイト」に参加いたしました。

今回のテーマは「WAKOU USA 北米工場稼働」と「新商品」のご案内を中心にブース設営をしました。

当社グループでは世界的なラーメンブームと需要を受け、2012年米国カリフォルニア州に、現地法人「WAKOU USA INC.」を設立し、工場稼働を開始しております。そのPRの一環として、北米圏での海外展開をご検討しているお客様に向け、ご案内&ご商談の機会を設けさせていただきました。

また、新商品では「黒味噌だれ」「はまぐり出汁スープ」「鯛だし塩スープ」をご紹介。

浴衣姿の可愛いスタッフさんにもお手伝いいただき、3日間でトータル9000食ご提供いたしました！

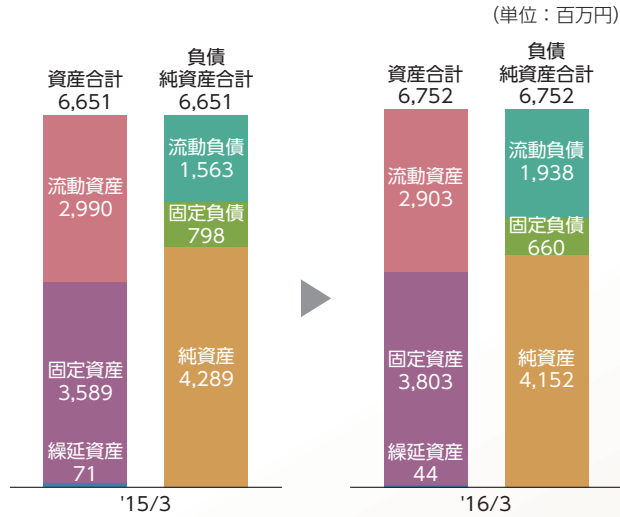
一番人気は「はまぐり塩ラーメン」。お湯割りの手軽さと本格的な味わいが好評でした。



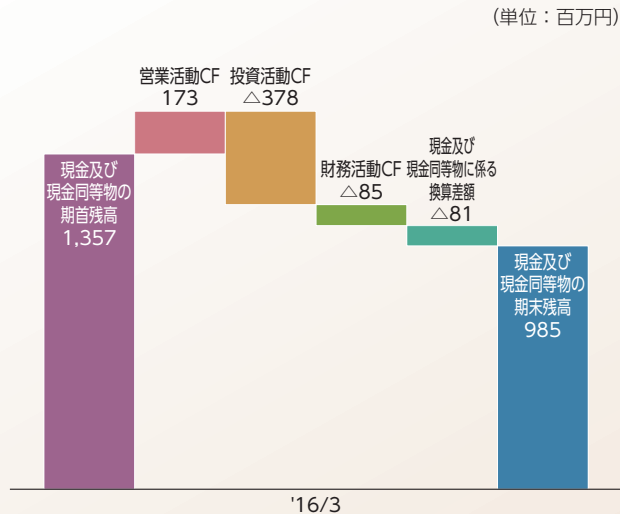
ご来場ありがとうございました！

連結財務諸表 (注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表の概要



連結キャッシュ・フロー計算書の概要



総資産

流動資産は前期末に比べ86百万円減少し、2,903百万円となりました。これは主に、受取手形及び売掛金が186百万円増加、たな卸資産が90百万円増加したものの、現金及び預金が334百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は前期末に比べ214百万円増加し、3,803百万円となりました。これは主に、有形固定資産が212百万円増加したことなどによるものであります。繰延資産は前期末に比べ27百万円減少し、44百万円となりました。

この結果、総資産合計は前期末に比べ100百万円増加し、6,752百万円となりました。

負債

流動負債は前期末に比べ374百万円増加し、1,938百万円となりました。これは主に、買掛金が166百万円増加、短期借入金が増加したことなどによるものであります。

固定負債は前期末に比べ137百万円減少し、660百万円となりました。これは主に、リース債務が70百万円増加したものの、長期借入金が増加したことなどによるものであります。

この結果、負債合計は前期末に比べ237百万円増加し、2,599百万円となりました。

純資産

純資産合計は前期末に比べ136百万円減少し、4,152百万円となりました。これは主に、利益剰余金が20百万円減少、為替換算調整勘定が117百万円減少したことなどによるものであります。

営業活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度末における営業活動の結果得られた資金は173百万円（前連結会計年度は128百万円の資金の取得）となりました。

これは主に売上債権の増加186百万円があったものの、税金等調整前当期純利益の計上145百万円及び減価償却費の計上269百万円があったことなどによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度末における投資活動の結果使用した資金は378百万円（前連結会計年度は598百万円の資金の使用）となりました。

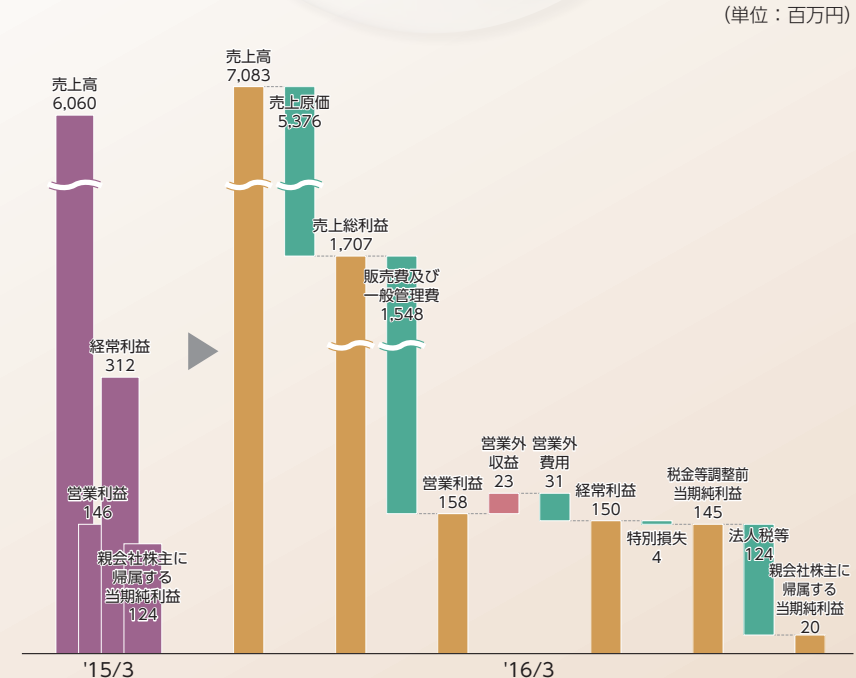
これは主に有形固定資産の取得358百万円があったことなどによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

当連結会計年度末における財務活動の結果使用した資金は85百万円（前連結会計年度は371百万円の資金の取得）となりました。

これは主に短期借入れによる収入230百万円があったものの、長期借入金の返済による支出212百万円、リース債務の返済による支出62百万円があったことなどによるものであります。

連結損益計算書の概要



【売上高・売上原価・売上総利益】

売上高は、拡販に注力している業務用製品が大幅伸長し、前期比16.9%増の7,083百万円となりました。

売上原価は、原材料や電力等の値上がりの影響を受け、前期比17.7%増の5,376百万円となりました。

以上の結果、売上総利益は前期比14.4%増の1,707百万円となりました。

【営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益】

営業利益は、米子子会社の工場稼働費用等が増加したものの国内事業好調により、前期比8.5%増の158百万円、経常利益は為替差益が減少した影響により、前期比51.9%減の150百万円、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比83.7%減の20百万円となりました。

来期の見通し

平成28年5月13日に平成29年3月期の見通しを公表いたしました。

来期は米子子会社において、工場稼働に伴う減価償却費や生産要員の人件費など多額の経費計上を予定しており、売上規模が拡大するまでの間、厳しい状況が予想されます。そこで、米子事業の拡大を急ぐとともに、連結業績を支えるべく国内の収益基盤の強化に一層注力してまいります。

売上高	74億92百万円
営業利益	74百万円
経常利益	51百万円
親会社株主に帰属する当期純利益	△77百万円

会社概要 (平成28年3月31日現在)

会社名 和弘食品株式会社
(英文名称) Wakou Shokuhin Co., Ltd.
設立 昭和39年3月30日
資本金 1,413,796千円
本社所在地 北海道小樽市銭函3丁目504番地1
従業員数 168名 (連結179名)
 従業員の他に臨時社員等を雇用しており、年間の平均雇用人数は69名であります。

取締役及び監査役

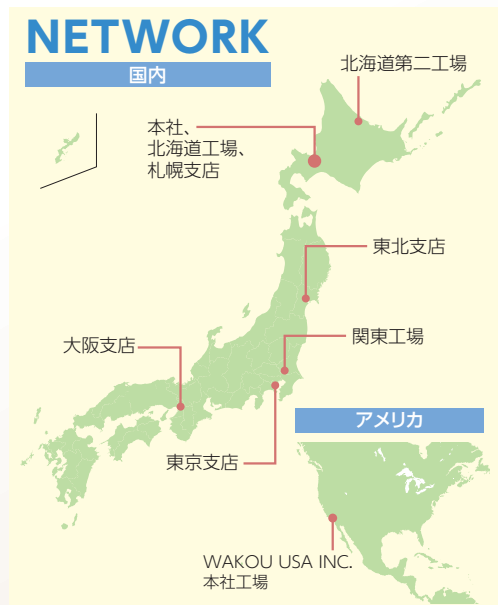
【取締役】

代表取締役社長 和山明弘 (生産本部管掌)
専務取締役 中島康二 (営業本部長兼営業部長兼経営企画室長兼提携業務推進室長兼海外事業担当)
常務取締役 市川敏裕 (管理本部長兼経理部長)
常務取締役 後藤政弘 (品質保証室担当兼CVS担当 WAKOU USA INC. President)
取締役 城畑孝康 (ものづくり改革推進室長)
取締役 久松幸雄

※久松幸雄氏は、社外取締役であります。また、久松幸雄氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

【監査役】

常勤監査役 鈴木雅志
監査役 森本清 (森本清税理士事務所所長)
監査役 森川潤一 (森川公認会計士事務所所長 北海道中央バス株式会社社外監査役)
 ※森本清氏、森川潤一氏は、社外監査役であります。また、森本清氏及び森川潤一氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。



株式の状況 (平成28年3月31日現在)

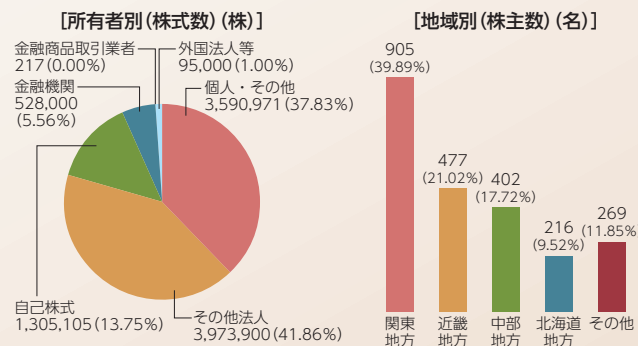
発行可能株式総数 16,600,000株
発行済株式の総数 9,493,193株
株主数 2,269名
総株主の議決権の数 8,179個

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社和山商店	2,074	25.33
日清オイリオグループ株式会社	1,600	19.54
水元 公仁	230	2.80
和山 明弘	208	2.54
株式会社北陸銀行	190	2.32
株式会社北海道銀行	142	1.73
中川 なを子	80	0.98
日本生命保険相互会社	80	0.97
アサップネットワーク株式会社	65	0.79
斎藤 大洲	62	0.75

※1. 当社は、期末日現在自己株式を1,305,105株所有しております。
 ※2. 持株比率は自己株式(1,305,105株)を控除して計算しております。

株主構成



株主メモ

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人特別口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告方法	電子公告により当社ホームページ (http://www.wakoushokuhin.co.jp/) に掲載いたします。ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
証券コード	2813 (東京証券取引所)

【お知らせ】

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に口座をお持ちの株主様の各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株主優待のご案内

当社では、株主様への利益還元、サービスの一環として株主優待制度を導入しております。

- 1単元以上10単元未満をご所有の株主様に、2,000円相当の北海道産品の詰め合せを贈呈いたします。
- 10単元以上をご所有の株主様に、5,000円相当の北海道産品の詰め合せを贈呈いたします。

